《掲示板の言葉》 他力	宗教科通信 聞　思 Mon-Shi	令和５年６月 東大谷高等学校 宗教科発行 （通算 20 号）

花まつり（5 月 9 日 火曜日 本校講堂で実施）の感想文から

講師：大谷学園　学園長　左藤（さとう）　一義（かずよし） 師

＜1 年生＞

○初めて聞いた縁起という言葉について、「すべてのことは、お互いにかかわり合って成り立っている」と聞いてとても共感しました。お互いに助け合いながら生活していくことは、とても大切で、助け合うからこそ感じることもあるのだと思いました。

○今まで考えたことがなかったことを沢山聞くことができました。その中でも印象に残ったのは「分別」という話です。「節分」の例えを通して、人間（自分）は、人間（他人）によって、好き勝手に「分別」されるものではないということに気づきました。また、「縁起」のお話では、人間は、決して一人では生きていくことができない。生きていく上では、必ず多くの存在と関わりながら生きていく。このお話を通して、これから出会う人、すでに出会った人、全ての存在との関係を大切にしていきたいと思いました。

○左藤一義先生のお話を聞き「花まつり」のように、伝統を伝えていくことは大切だと感じました。（中略）お話の中で、「私が理事になってからは節分という行事は行っていない」という言葉を聞いて、「なぜ」と疑問をもつ反面、「なるほど」と納得もしました。私たち人間は、節分になると豆をもって「鬼は外　福は内」

と言いながら豆を投げます。しかし、一義先生は、「鬼とは何か。福とは何か。鬼か福なのかは私たち人間が勝手に決めたことだ」と話してくれました。それを聞いて「なるほど」と共感しました。また、人間はみんな分別知（世間のものさし）にとらわれて生きています。そのことを気づかせてくれるための例えが節分であると感じました。

〇左藤先生は「人間は、必ず生まれて老いて病気になって死んでいく」とお話してくれました。私は、このことが「あたりまえ」になっていることに気づきました。「生老病死」は、「いのちの大切さ」について改めて考えるきっかけを与えてくれているのだと感じました。左藤先生ありがとうございました。

〇私は特に「“世間のものさし”で自分や他人をはかることは間違っている。やめた方がよい」というお話が印象に残りました。確かに、今の世の中はたくさんの人とつながれて、「すごい人たちがたくさんいるな」「自分なんて」と思ってしまいがちです。だからと言って、すごくない人、優れていない人には生きる価値がないのかと考えると絶対にそうではないと思います。今、自分に価値がない、また優れていないから価値がないと決めつけている人たちに、この考え方“世間のものさしで人をはかるな”ということが伝わってほしいと心から思いました。

＜2 年生＞

〇講堂に入った時に、舞台の装飾に驚いた。全体的に淡い色が使われていて、とても綺麗で落ち着いた気持ちにさせてくれた。虹のデザインがお気に入りです。本物の虹のように曲線になるよう一本一本長さを調節して丁寧に作ってくれたことを感じました。装飾をしてくれた方々に「ありがとう」と伝えたい。

〇一義先生のお話を聞いて、普段毎日開いている聖典には、数々の教えが書かれていて、私はどれだけの教えを実践できているのだろうとふと疑問に思いました。お釈迦様が大切にされてきた想い、考えを深く心に留めてこれからの生活に活かしていきたいと思いました。また、毎日聖典を読んだり、合掌の動作も改めて丁寧に行いたいと思いました。

〇「今を大切に生きてほしい」ということについて、私は普段部活で上手くいかなかったり、ふとした時に今自分は何をしたらよいのだろうと悩んだり、落ち込んだりする時がある。もちろんそのようなことを考える人は誰でも一緒だと思う。時に、本当に辛いことがあったら、「死にたい」などと考えてしまうこともある。しかし、私は親から大切にしてもらい、周りの存在に生かされていることをもっと深く理解しないといけないと思った。この世は人生 100 年時代、永く感じるが限りがある。今やりたいことをしっかり考えて、思う存分に行動していきたい。今この瞬間を楽しみ、自分に正直になってこれからも大切に生き抜いていきたいと思った。

〇インドでは、いまだにカースト制度のなごりがあって、生まれてから腕や足を切断された子どもたちがいると聞きました。生きていくために、そのようなことをされない

といけない人たちがいると思うと、とても心が苦しくなりました。誰かの命が粗末にされることなく、共に助け合っていける世の中になってほしいです。
○「美味しい物を食べる」ではなく、「美味しく物を食べる」と思うことが大切である。この言葉はシンプルだけれども、深みがあり、ますます考えさせていただきました。物を美味しく食べるという行いは、料理を作ってくれた方、食材となってくれた動物や植物に心から感謝して食べるということ。そのことが実践できると、食べ物をおろそかにすることがなくなっていくと感じました。視点を変えて物事を考えると多くの気づきがありました。
○左藤先生がお話くださった『舌切り雀』の最後のシーンの見解に関しては、おじいさん、おばあさんの「欲深さ」の違いで箱の中身が変化した。本当は同じ中身であったのではないだろうか。と聞いて新しいものごとの見方に驚きました。

＜3 年生＞

○花まつりの実行委員や宗教委員となったことで、花まつりの準備や作法を知ることができました。東大谷の限られた人しか体験することのできない経験だったので、本当によかったです。左藤先生のおはなしのなかで、「自己の物差し」と「世間の物差し」の内容は、とても考えさせられる内容でした。
○今回の花まつりの講師である、左藤一義先生のおはなしのなかで、一番印象に残ったことばは「今を生きることを大切にしてください」という言葉です。これまでの私には、なかった考え方だったので、少し驚きました。失敗を後悔することが多く、これは過去にとらわれているということに気づきました。これからは「今を生きることを大切にする」ようにしたいと思いました。
○毎年、この花まつりでは「命の尊さ・大切さ」に改めて気づかせてもらうよい機会です。普段の生活があたりまえではない、ということも。私を産み、育ててくれた親に改めて感謝をしたいと思いました。そして、「今を大切に」して、残りの高校生活を悔いのないように、思いっきり楽しもうと思いました。
○高校生活最後の花まつりは、講堂に入って講師の先生のおはなしを聞くことができて、本当によかったです。講師の方が、「今を大切に生きる」ということをお話しされていて、とても心に響きました。時間を大切にいろいろと挑戦していこうと考えます。
○「未来のために、いまを犠牲にして生きてはいけない」というお言葉がとても心に響きました。今、この一秒一秒を大切に精一杯生きようと思いました。今なにができるか、今日なにができるかを考えて素敵な日々を送りたいです。
○美術部さんや吹奏楽部さんなど、たくさんの人たちが協力して、花まつりを行うことができました。本当にありがとうございます。また、左藤一義先生がおっしゃっていた、節分のおはなし。人間の価値基準で、鬼と福をわけているのではないか、という言葉がとても印象に残っています。

〇仏教は、出世間という、世間のものさしではからないことを教えている宗教であるとおっしゃっていました。日々、開いている聖典のなかにも、同様の内容が書かれていたのを思い出しました。
〇昨年、赤井先生よりうかがったお話しにもあったように、「物差し」の話題が出てきたので、仏教において、このワードは重要なのかなと感じました。改めて、自分の価値観について見直す機会になりました。
〇左藤一義先生の「苦がなくなる」のではなく、「苦でなくなる」ということばが、心に残っています。前向きに、苦と向き合うことによって、自分なり解決する糸口が見える。そうして、苦でなくなるのだ、というおはなしでした。実践したいとおもいました。
〇今回も、貴重なおはなしを聞くことが出来て、とてもよい経験になりました。私達は毎日、聖典を開いていますが、本当に生活のなかで、その内容を実践できているのかを考え直す機会になりました。

＜宗祖親鸞聖人 御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要の生徒感話の様子＞
慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

〇2023 年 3 月 28 日（火）真宗本廟（東本願寺）の御影堂にて、本校生徒会会長の森実可さんが感話を担当されました。
　2000 人以上の参拝者の前で、自身の高校生活を通して「他との共有」について、元気よく話してくれました。参拝者は、森さんの想いに応えるように盛大な拍手と合掌の姿で感謝の念を伝えてくださりました。有り難く尊い御縁となりました。

※《掲示板の解説文》宗教科より
「他力というは、如来の本願力なり」親鸞聖人の主著『教行信証』より
　他力とは「人まかせ」や「他人の力をあてにすること」ではありません。阿弥陀仏の、あらゆる「いのち」をお救いになろうとする慈悲の働き（ご縁）を意味します。私たちは、無量無数のご縁によって生かされており、その働きを「他力」と呼んで良いでしょう。いのちのバトンを私に届けてくれたご先祖さま、足元を支える大地、水や空気、微生物の働きや、寝ている間も休みなく活動する心肺や脳など…。数え上げればきりがありません。生きているということは、決して自分の力（自力）ではないのです。にもかかわらず、私たち人間は、自分の力にうぬぼれ、分別心で他者を裁き、道具を見る眼で、「役に立つ」とか「立たない」とか、「勝ち・負け」「優・劣」など「いのち」に序列をつけます。世界の紛争から日常の争いまで、あらゆる衝突は、私たちが例外なく、無量無数のご縁の働き＝他力によって「生かされている」という真理を見失ったところから起きているといえます。東大谷高等学校で、あらゆる対立や紛争を「超えて浄土へ」導いてくださる仏様の教えに学びましょう。そして「生かされている」ことに感謝し、互いを尊重し合い、互いを生かし合う日々を過ごしていきたいものです。